



みんなで守ろう。
おおさか
商店街行動宣言

商店街等モデル普及セミナー

～ニューノーマルに沿った商店街活性化事例について～

大阪府では、地域商業や地域コミュニティの担い手として重要な商店街において、新しい生活様式（ニューノーマル）に沿った『ICT活用』や、地域内経済を循環させる『バイローカル』の「モデル創出」や「成果の普及」に取り組んでいます。

その一環として、地域商業の活性化に関する先進的な事例の共有や成果の普及を目的に、セミナーを開催します。

今回は、阿倍野区昭和町周辺において、『バイローカル』活動に取り組まれている、山本 英夫氏（戎橋筋商店街振興組合）をお招きし、バイローカルの基本的な考え方、地域での取組みや、今後の商店街活性化の可能性等についてご講演いただきます。さらに、『ICT活用』に先進的に取り組まれている商店街組織から、導入のきっかけ、実現に当たっての苦労や、今後の展望をご説明いただくなど、大変有意義な内容となっております。

商店街関係者や商業振興に関わる市町村及び商工会等の職員の皆様のご視聴をお待ちしています。

令和3年

8/27 (金)

から
Web視聴開始

申込不要・無料



第1部 <「バイローカル」に関する講演>

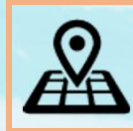
「買物は地元で！大阪で広がるバイローカル」

戎橋筋商店街振興組合事務局長 山本 英夫 氏
大阪府立大学観光産業戦略研究所客員研究員

第2部 <商店街組織における「ICT活用」事例>

① 「商店街エリアの見どころを回遊
GPSアートラン&ウォーク」

京橋中央商店街振興組合
理事長 土蔵 康司 氏



② 「電子書籍（いい店いい味 駒川の198軒）作成」

駒川商店街振興組合
理事長 名和 安将 氏



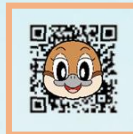
③ 「来店客増加をめざし、
アプリから『安心・安全・お得』の情報発信」

堺駅前商店会
会長 高杉 晋 氏



④ 「多世代を結ぶ、商店街ポイント機能付きQRカード」

宮之阪中央商店街振興組合
理事長 高瀬 巖 氏



◆ 山本 英夫 氏 戎橋筋商店街振興組合事務局長 大阪府立大学観光産業戦略研究所客員研究員

堺市生まれ、大学卒業後、都市計画コンサルタント事務所を経て2008年から戎橋筋商店街振興組合に勤務。法善寺横丁の復興やなんば駅前・御堂筋の道路空間再編をはじめ、ミナミエリアのまちづくりに関わる。自身の居住地域では、有志とビーローカル・パートナーズを2013年に設立してバイローカル活動を展開中。



Webセミナーは、令和3年8月27日（金）以降に、本事業の特設HP『みんなで守ろう。おおさか』からアクセスしてご視聴ください。

URL：<https://mamorou-osaka-shotengai.com/210827webseminar/>

※オンラインでの視聴には、インターネット環境が必要です。

視聴は無料ですが、視聴にかかるインターネット通信料は視聴者の負担となります。



特設HP



大阪府商店街等モデル創出普及事業事務局

（受託事業者：大阪府商店街振興組合連合会・株式会社産経アドス共同企業体）

電話：06-6636-1036 FAX：06-6636-1489

（10:00～17:00 土曜日、日曜日および祝日を除く）

みんなで 守ろう おおさか

詳しくは、特設HP内の広報記事をぜひご覧ください

「ICTの活用」



「バイローカル」

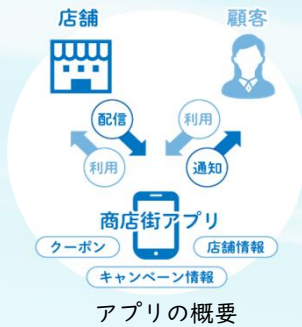


★ 「ICT」を活用したニューノーマルな商店街

新型コロナウイルスの流行によって、人との接触を減らさなくてはいけなくなるなど社会は大きく変わり、新しい生活様式「ニューノーマル」への対応が求められます。今まで人が行っていた作業や、対面で行っていたことをアプリやシステムで代用したり、遠隔で行うなど、ニューノーマルに沿ったICTやリモート技術を活用する取組みが始まっています。

事例

- サラリーマンファーストな「アプリ」開発
 - 高齢者にも優しい「QRカード」
 - スマホを活用した「GPSアートラン」
- ～ 常連客に「安心・安全・お得」を周知 ～
 ～ QRコードが印刷されたカードで非接触化とも両立 ～
 ～ 楽しんでもらいながら商店街の店舗を回遊 ～



QRカード



GPSアートランの広報

※QRコードは、(株)デンソーウェーブの登録商標です。

★ 地域の良き商いを守り育てる「バイローカル」とは

コロナ禍で人の移動が制限される中、「バイローカル」という考えが注目されています。バイローカルとは、地域の店で買い物をすることが地域商業の持続的な活性化の支えとなり、暮らしやすいまちづくりにつながるという考えのこと。

大阪市阿倍野区昭和町周辺では、2013年から住民が自発的に、この考えに基づき取組みを推進しています。基本的な考え方は、地域の素敵な商いを消費者が知り、継続して利用することで、「よき商い」が根つき育ち、結果的に消費者の生活の質を高め、地域の活性化につなげるというものです。



お店を掲載したイラスト入りの紹介マップを制作し、各店で置き合ってもらい、住民とお店が出会うイベントも年に一度行っています。お店紹介は、Webサイトでも行い、コロナ禍の影響を大きく受けた昨年4月からは、各店の営業状況、テイクアウトに関する情報や感染症対策などを追加して発信しています。

大阪府内の商店街でも、こうした考え方に重なり合う、持続的な活性化に向けた取組みが始まっています。

事例

- 軒先から商店街を変える
 - ガイドブックでまち巡り
 - テイクアウト等で魅力発信
- ～ 地域の魅力的店舗、クリエイターを商店街に誘致 ～
 ～ 地域の魅力を伝えるガイドブックを制作、マイクロツーリズムの機運醸成 ～
 ～ 地域の飲食店及び地域資源の魅力を発信、エリアのファンを増やす ～